

# 第四中学校・第八中学校統合委員会 要 点 記 録

## 第 1 5 回

開 催 日 時	令和3年2月19日(金) 午後6時30分～7時30分	
開 催 場 所	第八中学校 体育館	
出席者	委 員	渡辺勲、伊藤英男、遠藤久子、清家靖浩、成嶋伸浩、杉谷華織、佐久間利彦、下山田智恵、中田あき子、飯沼直之、小林正朋、藤田由紀、甚野誠一郎、大柴文子、和泉智乃、熊谷恵子、竹之内勝、遠藤純子、河村明彦、永田純一、塚本剛史 <span style="float: right;">(敬称略、名簿順)</span>
	その他	教育長、教育委員会事務局次長
	事務局	子ども・教育政策課学校再編・地域連携係
会 議 次 第	<b>【報告】</b> 1 明和中学校の校名の由来及び校章等の見直しについて 2 校旗について 3 第四中学校の石碑について <b>【議事】</b> 1 校歌について <b>【閉会】</b> 1 各委員より一言 2 教育長及び次長あいさつ	

### 第 1 5 回 第四中学校・第八中学校統合委員会 会 議 要 旨

#### 1 開 会

##### 委員長

定刻となったため、これより第15回学校統合委員会を開会する。本日、傍聴者はいない。およそ2年半前に発足した統合委員会だが、あと1か月あまりで明和中学校が開校する。緊急事態宣言を受け、本来であれば、開催中止や書面協議とするべきところだが、校歌のお披露目や今回で最終回を迎えることから、これまでどおり集会形式による開催とした。

#### 2 報 告

**報告(1) 明和中学校の校名の由来及び校章等の見直しについて**

##### 委員長

報告(1) 明和中学校の校名の由来及び校章等の見直しについて、学校再編・地域連携担当課長の説明を求める。

##### 学校再編・地域連携担当課長

委員の皆様には、事前に電話等で説明させていただいたところだが、明和中学校の校名の由来、

校章とその説明については、「4本のラインは、鷺宮・白鷺・若宮・大和の4地域を表し」と説明してきた。その説明について、区民の方から「通学区域である野方地域が入っていないため、野方を入れ、校章のデザインを5本線にしてほしい。」とご連絡をいただいた。改めて事務局で通学区域を確認したところ、野方一丁目、二丁目、五丁目のそれぞれの一部が含まれていることを確認した。これを踏まえ、説明文に「野方」を加え、「5地域」に修正するとともに、校章のデザインについては、「5本のライン」に修正することが適当であると判断した。事務局の確認が不十分であったことから、このような事態を招き、深くお詫び申し上げます。

今回の見直しに伴い、標準服のエンブレムやボタン等、校章デザインを使用する物品については、既にデザインを差し替え、予定通りの納期で準備を進めている。

標準服については、2月6日に在校生の採寸を終えたところであり、3月25日までに各学校を通じて支給する。

なお、今回の見直しについては、統合委員会ニュースに訂正文を掲載させていただく。

## 報告(2)校旗について

委員長

続いて、報告(2)校旗について、事務局の説明を求める。

事務局

刺繍校旗については、すぐの対応が難しく、完成時期については業者と調整中だが、学校運営に支障がないよう進めてくので、ご了承いただきたい。最終回にお披露目することができず、深くお詫び申し上げます。

資料2は、校章デザイン差し替える前のものではあるが、業者から提供された完成イメージ画である。生地の色は、明和中のスクールカラーが青色に決定したことから、「縹(はなだ)」を採用した。金糸・銀糸の配色は資料のとおりであり、校名部分は、市松模様に刺繍を施す。

## 報告(3)第四中学校の石碑について

委員長

次に、報告(3)第四中学校の石碑について、学校再編・地域連携担当課長の説明を求める。

学校再編・地域連携担当課長

両校の卒業制作や記念碑等については、写真に収める等して、現物は撤去することとしていた。第四中の校庭にある石碑は、今年度の3月末に撤去する予定である。なお、第八中の校庭にある石碑は、校舎解体工事の際に撤去する。

## 3 議事

### 議事(1)校歌について

委員長

議事(1)校歌について、事務局の説明を求める。

事務局

校歌の歌詞は資料3のとおりである。尾崎亜美氏には、11月末に一度、案という形で音源と歌詞をお送りいただき、1月中旬に納品していただいた。事務局と尾崎様を仲介していただいた方からは、「尾崎様ご本人も子どもたちがこの校歌を歌うことをとても楽しみにしている。入学式や開校式等、校歌を披露する場に出席できる際には、ぜひご連絡いただきたい。」というメッセージをいただいている。

それでは、最初に伴奏のみを流した後、歌入りの音源をかけたいと思う。

(校歌)

委員長

皆さんから感想をいただく前に、まずは私から感想をお伝えする。明るく、最後の「飛び立とう 自由に」という結びは、将来に羽ばたいていけるような感じがして、非常に良いと思った。

他に意見・感想はあるか。

委員

とても校歌らしい曲調だが、昔ながらの校歌というわけではなく、現代にマッチしたとても良い曲になっていると思った。

委員

中学生も親しみを持ちやすい校歌だと思った。未来を豊かに創造していく様子や、のびのびと育っていく様子等、メロディーや歌詞から様々な広がりを感じ取ることができ、非常に良かった。これから多くの人に大事に歌われていってほしい。

#### 4 閉会

##### 閉会（1）各委員より一言

委員長

本日は最後の統合委員会ということで、各委員より一言ずつ感想をお願いしたい。

委員

地域住民の一人として参加させてもらったが、やはり責任重大だなという思いがとても強かった。特に、校名や校章の協議にあたっては、応募数が多かったこともあり、とても難しく感じたが、子どもたちへのアンケートを通して、将来に対する希望を聞くことができた。また、PTAから参加されている委員の皆さんの意気込みや強い思いを改めて聞き、感動した。とても良い経験をさせてもらい、感謝申し上げます。

委員

私は、親としての希望がなるべく反映されるように、ということを考えて参加していた。特に、標準服については、旧態依然としたものではなく、規格や耐久性等にかなり希望を反映してもらえたと思っている。非常に有意義な経験ができた。

委員

初回から最終回まで参加させてもらい、本当に貴重な体験であった。

まず伝えたいのは、教育長をはじめ、事務局の方々のご尽力があって、滞りなく、難しい課題を乗り越えることができたと思っている。校章の見直しにあたっては、事務局の方が大変責任を感じているような説明があったが、校章をよく見ると、花びらが5枚、太陽の光を表す外側の三角も5つ、花びらに描かれた線も5つということで、全部5つにまとまったということで良かったと思う。

委員

子どもたち、親戚一同がお世話になった第八中が最後ということで、少しでも何かの役に立てれば、という思いで参加していた。

新しい中学は、私の家からは少し遠くなるが、鷺宮小・西中野小の統合も控えているので、それもまた楽しみに、地域住民として見守っていきたい。

委員

私は第四中の卒業生なので、自分の学校がなくなってしまうことに複雑な思いを抱きつつ、新しい学校をつくる場に関われることに嬉しさもあった。第四中がなくなるのは寂しいが、新校開校に向け、皆さんと一致団結して様々なことを決めていけたこと、大変嬉しく思っている。

委員

次世代育成委員をしていた経験や、子どもを持つ保護者でもあるということから、それぞれの立場から考えていたつもりだが、最も意識したのは、子どもの立場から見ることであった。皆さんの立場から見える意見は様々で、校章や校名の協議の際にはとても勉強になった。第四中生・第八中生の気持ちに寄り添った議論・検討ができたと思う。

#### 委員

本当にあつという間の2年半であった。終始、極めて穏やかな委員会であったのは、委員長・副委員長をはじめ、委員の方々、校長・副校長、保護者の方々の努力の賜物だなと感じている。

統合委員会はなくなってしまうが、地域住民として、新校舎完成の日までを見守ってあげたいと思っている。

#### 委員

前任のPTA会長から引き継ぎ、1年だけの参加であったが、新しい学校はこんな風にできていくのか、と体感させてもらった。校歌や校章は、両校の思いを非常に残しながら、新しい校風が期待できるものができた。伸びやかな校歌からは、子どもたちが合唱する姿が目に見え、統合委員会の活動の素晴らしさを改めて感じる事ができた。

鷺宮小・西中野小の統合も控えているため、この統合委員会で学んだことを周りに伝えながら、何らかの形で関わってあげたいと思う。

#### 委員

統合委員会は、様々な立場の方々の貴重なご意見を聞かせていただける場であり、勉強させていただくことばかりであった。

鷺宮小・西中野小の統合が控えていることもあり、最近では、統合委員会に対する保護者間の関心が高まってきている。統合委員会で協議された内容や、明和中の標準服の話等を通して、明和中に対する保護者の期待を肌で感じる事ができた。

#### 委員

学校の統廃合に関わることは、そうそうないため、すごく良い経験をさせてもらった。校歌はじめ、ここで協議して作られたものが50年、100年と歴史に残るお手伝いをさせてもらえて良かった。明和中が、地域、子どもたち、先生方、関わる人々にずっと愛され、大事に残ってほしい。

#### 委員

私には、4月から明和中の1年生と2年生になる子どもがおり、小学校・中学校ともに統合を経験した。わくわくドキドキした気持ちを抱える新1年生の子どもと、「また統合か。どうなるんだろう。」と不安を抱える新2年生の子どもを見て、2回目の統合となっても、本人たちはいろいろな思いを抱えているのだな感じた。ただ、校歌や標準服が完成していく中で、やはり非常に嬉しい気持ちもあると思うので、親としても明和中のスタートを楽しみにしている。

また、新校舎が完成するまでが本当の統合だと思っている。明和中については、新校舎完成まで少し期間があるが、この統合委員会の皆さんには引き続き関わってもらえたらと思っている。

#### 委員

統合委員会に参加させていただいたことにより、広い範囲の地域を考えるようになり、皆さんの話から、地域の特性や歴史を学ぶ事ができた。私は、大和小・若宮小統合委員会に参加していた経験から、第四中・第八中統合委員会にも貢献したいという思いで参加させていただいた。とても穏やかに話をされる皆さんと、素晴らしくまとめてくださる委員長のおかげで、終始、良い形で進められたと思う。

特別支援学級のある学校の統合ということで、お伝えしたいことはたくさんあった。それについては、1年目の時に随分お話しできたと思っているが、何よりも、皆さんと挨拶を交わすことができるようになったことが大変嬉しい。統合委員会は本日で最後だが、またお会いする機会があれば、お声がけいただきたい。

#### 委員

新校の立ち上げは、長い教職人生の中でも、初めての経験であった。学校というのは、つくづく、単なる建物ではなく、いろいろな方々の思いが凝縮された文化そのものだなということを感じた。皆さんがこだわりを持って、非常に活発に意見を交わしてきたが、そうした議論の原点には、子どもたちの今と将来の幸せ、家族や地域の幸せがあったと、思い返している。第四中と第八中が閉校となることに寂しさはあるが、いろいろな思いを背負って開校する明和中学校は、子

どもたちと一緒に、将来の幸せに向かっていけると思う。また、両校の卒業した生徒たちは、地域の学校として、明和中に関わっていくことができると思う。ここでの経験については、職員や子どもたちにも機会があったら伝えていきたい。

委員

新しい中学校ができるまでに、何度も話し合いを重ね、地域の方々のたくさんの思いの上に校名や校章、校歌が決まり、ようやく学校ができるんだなと思った。校名、校章、校歌、標準服については、地域の方々の思いだけではなく、子どもたちの意見も汲んでもらえたので、子どもたちは、明和中は自分たちの学校なんだ、という思いを持ってスタートできると思う。また、新しい学校で新しい人間関係をつくって、のびのびと学んでいくと思う。そういう過程に関わらせていただいたこと、とてもありがたく感じている。

委員

委員長・副委員長のリーダーシップとお人柄のおかげで、統合委員会が明るく和やかに、まさに校名のごとく、最終回までを迎えることができた。約2年半続いた統合委員会がいよいよ終わると思うと、校歌を聞きながら胸がじんとした。

本当に素晴らしい学校が立ち上がることに、まさに、2つの校区の愛情と、第四中愛・第八中愛から掛け算となった明和愛に繋がっていくと感じている。統合委員会はこれで閉会となるが、統合委員の皆さんには、今後は、明和会として見守り続けていただけたら嬉しい。

委員

校名が明和中学校に決まった時、なんて素敵な学校名がついたんだろうと思った。校名や標準服は、子どもたちの意見も踏まえて選ぶこととしていたが、委員がいいなと感じていたものと、子どもたちが選んだ結果が一致した時には、本当に良いものにはジェネレーションギャップなんてないんだなと思った。そこには、私たちが子どもたちを思う気持ち、子どもたちも地域の一人だという考えを持った、ということが非常に大きかったと思う。

また、明和中の校歌は、子どもたちが歌ったら、本当に明和の風が吹くような、帰り道歌いながら帰る様子が浮かぶ素敵な校歌だと思った。

地域の皆さん、保護者の皆さん、事務局の皆さんに心より感謝申し上げます。地域の学校として、明和中はこれから歩いていくと思う。

子ども教育施設課長

4月からは新校舎整備が本格的に始まるため、地域の皆様には大変ご迷惑をおかけすることになると思うが、安全第一に、皆様に喜んでいただけるような校舎を整備していきたい。引き続きご理解、ご協力をお願いしたい。

学校再編・地域連携担当課長

統合委員会では、地域の様々な立場の皆様が、明和中の子どもたちを中心に考え、寄り添い、熱く議論を重ねていただいた。それらが校歌や校章、標準服といった形になっていく姿を間近に見させていただき、大変勉強になり、ありがたく感じている。「新校舎完成まで円滑に繋げていくことが大切だ」という話もあったように、今後も円滑に事務を進めていきたい。

副委員長

私は、統合委員会に初めて参加した上に、副委員長という大役まで任されることとなり、至らぬ点も多かったと思うが、委員長の支えもあってここまでくることができた。広い地域の方と知り合い、話し合いを重ねられたことが一番ありがたかった。

校章や校名等、いろいろなことを決めるにあたり、子どもたちの意見を聞きながら進めることができたのは、とても良かったと思っている。本当に皆さんの力でここまで来ることができたと感じている。

委員長

以前にも、他の統合委員会の委員長を経験したことがあるが、その時は非常に活発過ぎる討論があり、どのようにまとめれば良いかと、家に帰ってからも悩むことがあった。第四中・第八中統合委員会では、いろいろな課題について、協力し合いながら、子どもたち中心に話を進めるこ

とができたので、非常に良かったと思う。長い間、ご協力いただき感謝申し上げます。

## 閉会（２）教育長及び次長あいさつ

委員長

統合委員会の終了にあたり、教育長及び次長からご挨拶をいただきたい。

教育委員会事務局次長

第四中・第八中の統合について、２年半と、長きにわたりご検討いただき、感謝申し上げます。特に、委員長・副委員長については、意見の集約に苦労をおかけしたこともあると思うが、改めて御礼申し上げます。

校歌については、メロディーラインがとても爽やかで、子どもたちが歌うと本当に良い校歌になると思った。これから式典や学校行事等で歌われ、歌い継がれていくことが本当に楽しみである。

統合後、新校舎完成まで少し時間はかかるが、また折に触れていろいろご相談することもあるかと思うので、引き続きご協力をお願いしたい。

教育長

ご挨拶の前に、校章の件については、深くお詫び申し上げます。先ほど、励ましの言葉もいただき、非常にありがたく思っている。委員の皆様の話を知っていると、明和中の校章の説明にある「それぞれの地域が協力し合う様子を表現しています」「学校・家庭・地域からの温かなまなざしに包まれながら」という説明は、まさに第四中と第八中の地域の方々がそうしてきたように、明和中也それが引き継がれていくのだと感じた。

我々、教育委員会事務局の思いだけでは、子どもたちのための再編計画は前に進むことができないということを改めて感じた次第である。次は鷺宮小・西中野小の統合となったが、それについても、じっくりと皆様の思いを受けて取り組んでいきたい。

明和中の校歌の「たくさんの物語が生まれる」という歌詞が好きなのだが、まさに、４月からは新しい学校から未来へ羽ばたいていく子どもたちが育っていく。新校舎完成まで少し時間はかかるが、皆様には、子どもたちの一日一日をこれから先も支えていただければ幸いである。

改めて、教育委員会を代表して、委員長・副委員長をはじめ、皆様に心より感謝申し上げます。

委員長

以上をもって第四中学校・第八中学校統合委員会を終了する。

<記念撮影>

—統合委員会終了—